



熟練と継承

昨年の4月に入職してから、周りの皆さんのサポートを受けながら（ほとんどですが笑）なんとか1年を乗り切ることができました。

そして今年度は、新しい職員も少しずつ増え、現場にもようやく安定感が戻ってきたように感じています。

事務作業については毎年似たような繰り返しではありますが、実際に中身を理解しながら取り組んでみると、「ああ、そういうことだったのか」と納得できる場面が多くなってきました。昨年度の資料を手に、試行錯誤しながら作業を進めるうちに、ほんの少しずつですが施設長としての“未来への不安”が薄らいでいくのを感じています。

とはいえ、私は介護の現場出身ではない“畑違いのおっさん”ですから（笑）、そう簡単に理解できることばかりではありません。「介護をなめんな！」と言われても仕方ない最有力候補かもしれませんね。それでも、分からないなりに一歩ずつ適応していく姿を、どうぞ温かく見守っていただければ幸いです。

少し私事になりますが、先日、公安委員会よりライフル銃の所持許可をいただきました。ハンターとして10年かけてようやく得られる資格ですが、振り返ってみると「熟練ハンター」と呼ばれるには、やはり10年という年月は必要だったのだと感じます。

世間ではハンター不足が問題視されていますが、これまでの社会の風潮がその結果を招いたとも言えるでしょう。

同じように、ふくろうの郷でもいま“中間層”の介護員が不足しています。介護員として熟練し、後輩を指導し、知識と技術を磨きながら、やがて施設運営にも関わっていく——。そんな人材が少ないという現実には、運営側が未来を見据えた育成を十分に行ってこなかった証かもしれません。

人の世界において「継承」と「熟練」はやはり欠かせないものです。経験を重ね、それを次へとつないでいくことの大切さを、あらためて感じる今日この頃です。